



富田っ子

学ぶ喜び 感動のある学校

< 自ら学ぶ力 豊かな心 健康な身体の育成 >

令和7年3月7日(金)発行責任者 校長 國分 洋

みんなで飾る「有終の美」

先日の授業参観では、たくさんの保護者の皆様にご来校いただきありがとうございました。子どもたちの一年間の成長をご覧いただけましたでしょうか。

令和6年度の登校日数も残すところ10日となりました。学年末の生活を一日一日大切に過ごし、有終の美を飾っていきたいと考えます。「有終の美」とは、終わりを美しく締めくり、次のステージへの明るい希望や期待を持つことを意味しています。一人一人が自分の成長を実感し、自信と希望を持って、進学進級できるよう働きかけてまいります。

6年生を送る会～感謝の思いを伝え合う～

6年生を送る会では、一年間の学びや各学年のよさを生かした心温まる発表を披露し合い、卒業生と在校生が互いに感謝の思いを伝え、富田っ子の絆をさらに深めることができました。

<入場>

6年生は1年生と手を繋いで入場し、1年生が心を込めて作った「似顔絵入りメダル」を首にかけてもらい、とても嬉しそうでした。

<1年生>

困ったとき助けてくれたり、一緒に遊んでくれたりした6年生との思い出をユーモアあふれる劇にし、「ジャンボリミッキー」を6年生と一緒に踊りました。

<2年生>

よさこいダンス発表後、6年生や担任の先生へのユーモアあふれるインタビューで盛り上げてくれました。ドラえもんの歌のダンスも披露しました。

<3年生>

音楽の授業で練習した合奏を披露し、市のキャラクターのテーマソングのダンスをしながら、社会科の授業を生かし、市の特産物の紹介等も発表できました。

<4年生>

6年生とのなわとび対決では、はじめは手加減していた6年生も、最後には全力真剣勝負となりました。鉄腕アトム合奏も息の合ったすばらしい演奏でした。

<5年生>

「威風堂々」の合奏の後、「はいよろこんで」を6年生と踊りました。5年生は会場作成・装飾をはじめとする様々な開催までの準備や当日の司会進行、運営の仕事にチームワークよく、意欲的に取り組んでくれました。

<6年生>

ひと針ひと針、感謝の思いをこめて6年生全員で縫い上げた「手づくり雑巾」が在校生にプレゼントされました。A doの曲のダンスを楽しい衣装を身につけて踊り、最後はしっかりと手話をしながら合唱を披露し、会の最後を締めくくってくれました。

**何事にも全力投球で取り組み、下級生の憧れの的であった自慢の6年生
中学校での活躍も応援してまいります。**



「東日本大震災追悼」全校集会より

今年も3月11日が近づいてまいりました。本校でも3月3日に犠牲者の追悼とふくしまの復興を願う全校集会を開催しました。

能登半島地震・同豪雨被害からの復興もなかなか進まない中、南海トラフ地震発生の恐れも懸念されております。震災を経験した我々大人は、子どもたちにその体験や教訓を伝え、今後の大災害に備え、命を守る術を身に付けさせなければなりません。校長からは以下のような話をしました。

みなさんはまだ生まれていない14年前、2011年3月11日（金）午後2時46分、「東日本大震災」が発生しました。宮城県沖を震源としたマグニチュード9という観測史上最大規模の大地震でした。当時、千年に一度の大きな地震とも言われました。

この地震により巨大な津波が発生し、福島県の浜通りをはじめ、東北地方の岩手県、宮城県、福島県の太平洋沿岸地域に壊滅的な被害をもたらしました。その後、大きな津波が直撃した原子力発電所が大爆発する事故が発生してしまいました。

地震や津波で多くの人が命を落としたり、行方不明になったり、原発事故でふるさとを離れて避難生活をしなければならなかったり、多くの人が犠牲になり、被害にあわれました。

あの日から14年という月日が流れました。福島県をはじめ被災地の復興もだいぶ進んできましたが、東日本大震災は決して過去のものでなく、今でもその被害や影響で苦しんでいる人がたくさんいることを私たちは忘れてはなりません。復興とは、もとどおりに復活させることです。

3月11日は、大震災で、亡くなった方のご冥福を祈り、被害にあわれた方々に思いをよせる日なのです。

私たちは自然の力の前では本当に無力です。いくら頑張っても復興に取り組んでも震災で亡くなった人は帰ってこないし、震災の記憶が消えるわけではありません。

でも、私たちにできることはあります。それは「大地震の教訓を生かし、これからの災害に備え、命を守ること、福島県の復興を引き継いでいくこと」です。

いざというときに、自分の命や友達、家族みんなの命を守る、救う方法をぜひ、おうちでも、話しあって確認してみましょう。

例えば、大きな地震の後、電話がつながらず、家族で連絡がとれないときの集合場所（避難所）の確認やいざというときの水や食糧の準備をしておきましょう。

震災後、復興に取り組んできた人々の苦労があって、今、私たちは幸せな生活を送ることができていることに感謝しなくてはなりません。

家族や地域の方への感謝を忘れず、かけがえのないたったひとつの命を大切に、福島県や郡山市の未来をひらくたくましい人に育てほしいと思います。



【富田町の被害の様子】



【郡山市内の被害の様子】



【開成山公園での給水活動の様子】